

根っこをしっかりと養う生き方を 志高く、確かな日々の歩み

お変わりありませんか？

今年の冬は、ひととき厳しい寒さでした。その冬も、ようやく過ぎ去ろうとしています。先週末、厳寒の地であるオホーツクに出掛けている間に、我が家の庭の枝垂れ梅が満開に近付きました、やがてあつと言う間に、桜の時節を迎え、山梨は桃源郷の世界になりますね。冬の寒さの厳しい分、春の息吹が生き生きと感じられるように思います。三月の例会で、間もなく諸君と会えること、心待ちにしています。是非、例会にご出席ください。久しぶりにお会いしましょう。

ようやくスタートした日本語教室

今月初めに、バングラデシュに出掛けていました。五年来、準備を進めてきた志ネットワーク・日本語教室のオープニングのセレモニーに出席するのが目的でした。

この日本語教室がオープンにこぎつけるまでには、実は十五年間の準備期間がありました。もちろん準備期間として意識した十五年ではありません。その時々、一つの目的を持ち、それを実現するために全力を尽くしてきたわけですが、結果として、その期間がなければ、日本語教室のオープンはできなかったのです。十五年の経験があったからこそ、その上に、日本語教室という花が咲いたのであります。

15年の蓄積があってこそ実現した夢

まず、十五年掛けて培った現地での人脈が、最大の準備になりました。志を同じくする現地の仲間とのお付き合いを大切にしてきた結果、それらの人達が日本語教室をオープンする水先案内人になってくれました。現地に信頼できる同志がいなければ、日本語教室を開設することさえ考えなかったでしょう。

さらに、およそ十年間、毎年のように日本からのスタディツアーを実施しました。二百人ほどの日本の方々、現地に足を運んでくれました。そして、世界最貧国と言われた時代のバングラデシュを、つぶさに見聞してくれました。その人達が、日本語教室を開設する応援団になり、物心両面で、惜しみなく力を差し出してくれました。もしその応援がなければ、日本語教室は、構想段階で頓挫していたことでしょう。

そして、現地であらゆる困難に耐えて開所にこぎつけた『青年塾』の岡林邦明、淳子夫妻がいたことです。「貧しい国の人達に日本語を教えることを通じて、日本と相手の国の間に`文化の懸け橋`を渡したい」との『志』を持つ岡林夫妻が居なければ、計画は、絵に描いた餅で終わっていました。二人の苦労は、日本では想像もつかない過酷なものでした。もちろん、苦労は今も、これからも続きます。しかし、二人は、歯

を食いしぼり、志を果たす道を歩いています。

資力でやることは、`根無し草`の危険

資力、即ち、お金の力があれば、今日思い付いて、明日にでも日本語教室を開所できます。しかし、それはしょせん`根無し草`。風が吹けばぼきんと折れるか、枯れてしまいます。私達には、`資力`はありませんでした。しかし、`志力`がありました。『志』は、あらゆる困難に耐える勇気と力を与えてくれました。

今ようやく、日本語教室は正式にスタートしました。それは、過去十五年間、私達が、根っこを育てることに時間と労力を費やしてきたからこそ実現にこぎつけられたのです。現地の人脈という根っこ、日本の応援団という根っこ、そしてあらゆる困難に耐えて努力する岡林夫妻という根っこ。それらの根っこが、地中深く伸びていたからこそ、ようやく、日本語教室の芽が出始め、花を咲かせる可能性が生まれてきたのです。

私は、日本語教室の歩みを振り返ってみて、人生と同じだと思いました。人生もまた、根っこを養う日々を送らなければ、将来、芽も出ないし、花も咲きません。土を耕し、根っこを地下深く張るような生き方こそ、実りの多い人生をもたらすのではないのでしょうか。

そのためには、やはり、『志』です。即ち、目先の、小さな損得にばかりとられる心を克服して、長い目で、「みんなのために役立つ心」を養わなければなりません。目標をしっかりと定めて、日々を確かに生きることです。漫然と日々を過ごしていたのでは、根っこは養えません。

例えば、富士山に登ることを決めたとしましょう。ただ決めただけでは、いつまで経っても、頂上に到達することはできません。確実な一步一步の歩みを進めて行ってこそ、頂上に立つことができるのです。頂上に立つという目標があるからこそ、今踏み出す一步に深い意味が出てくるのです。どこの山に登ると決めないままに、ただ漫然と歩き回っても、いつまで経っても、どこの山頂にも到達しません。

`生涯進化`を目標にして生きる決意

私は最近、歳不相応に忙しい日々を送っています。多くは、「求められるままに動いているうちに、忙しくなってしまった」のです。どうして求められるようになったのか。それは、結果として、今までの歩みが、そのまま、根っこを養う生き方になっていたからかもしれません。

人を育てる仕事を三十年。その間に手塩にかけた人達が育ってきました。私が、損得を抜きにして大切にしてきた人脈が、私を必要としてくれます。人生の根っこの上に、花が咲き始めた喜びを密かに感じています。人の体は、歳と共に老化していきます。しかし、精神は、歳と共に、「進化」していくことができるようです。体において老け込んでも、心において老け込まない。`生涯進化`を目指したいと思うこの頃です。

夢甲斐塾
塾長 上甲 晃